



学校だより

令和5年 4月 27日
No. 2 5月号
横浜市立瀬谷第二小学校
校長 山崎 由美

学校教育目標

友情わく かわく 希望わく 毎日わくわくする学校

対話ができ かかわりあえる子どもたちに

校長 山崎 由美

子どもたちと出会って約1か月がたちました。この1か月で子どもたちのよい姿をたくさん見ることができました。朝の登校時、保護者の方と離れられず泣いている低学年に「大丈夫だよ。一緒に行こう。」と声をかけてくれる高学年の子がいました。保護者の方にしがみついてなかなか離れられない状況でも辛抱強く待ち、声をかけ続けて教室に連れて行ってくれました。絵を見せてくれた子に隣の席の子が「上手。」と自然に称賛していた姿も見られました。キャリアパスポートで今年度の目標を立てていた時は「1年後どんな自分になりたいですか」という項目で「優しい人」「人を助けられる人」というような内容を書いている子の割合が多いことに驚きました。このように本校には、優しく、相手意識が高い子どもたちが多いです。

本校の「令和4年から6年の中期学校経営方針」では大きく2つの目標があります。1つ目は対話を重視した授業の展開とそれを通して自己肯定感を高めること、2つ目は児童同士だけでなく保護者や地域とのかかわりを通して自己有用感を高めることです。

まず、この相手意識の高い子どもたちに授業を通して対話の力をつけられるようにします。対話は会話と違い、言葉のやりとりだけではなく、相手の意図を汲み取り、自身の考えを深める必要があります。先日の朝会で「聴く」ことの大切さを話しました。相手の言葉を耳で聞くだけでなく、目も心も使うことで相手の伝えたいことをしっかりキャッチして自分の中で消化すること、話した方は聞いてもらえたという安心感が生まれること、それを繰り返すことで、対話が生まれます。教師は対話ができる場を授業の中で意図的に作っていきます。そうすることで子どもたちの経験が積み重なります。今年度はまずはその土台を作っていきたいと思います。

そして、今年度から「学校運営協議会」を立ち上げます。これは地域・保護者が学校運営に積極的にかかわるための組織です。この組織を積極的に活用し、地域の力を子どもたちの教育活動に活かしていきます。地域には本物の技術や経験をもっている方々がいらっしゃいます。そういう方たちに学校教育にかかわっていただくことが子どもたちの学習をより豊かに展開することにつながります。情報があふれている世の中だからこそ、実体験には力があります。相手意識が高い子どもたちなので人とのかかわりの中でたくさんの気持ちの交流をすることができるでしょう。

今年度は「対話」と「かかわりあい」を大きな柱として子どもたちの自己肯定感と自己有用感を育てていきます。そのためには、地域・保護者の方々が必要と考えています。今後、学校運営協議会を通して様々な依頼をされることがあると思います。どうか皆様の力を学校にお貸しいただき、子どもたちの成長を支えていただきたいと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。

☆瀬谷第二小学校ホームページに、日々の学校の様子を、「わくわくレポート」として不定期でアップしています。合わせてご覧ください。

